

ダンボールで生ごみの堆肥化を！！

家庭でできる可燃ごみの減量法として、ダンボールコンポストでの生ごみの堆肥化をご紹介します。

○ダンボールコンポストとは

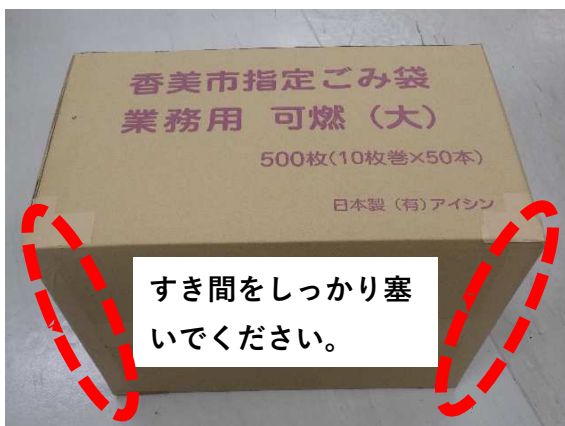
腐葉土と米ぬかを入れたダンボールを使い、微生物の働きによって生ごみを分解し、堆肥を作るものです。

ダンボールは通気性があり、コンポストの中で働く菌類の活動に必要な空気の循環に適しています。畑などに直接生ごみを埋めるより分解が早く、臭いもほとんど出ません。

○ダンボールコンポストに必要なもの

・ダンボール箱 ・ガムテープ ・ダンボールを設置する台 ・腐葉土 ・米ぬか

○ダンボール容器の作り方



虫の侵入を防ぐため、ダンボールの繋ぎ目や、角はガムテープですき間を塞いでください。

今回はダンボール箱の上部を切り取って蓋にしていますが、布をかぶせてから紐で縛り、蓋の代わりにしても構いません。

箱を補強するため、底の部分はダンボールを二重にしています。



《ポイント》

虫が入らないよう、蓋はピッタリ閉まるようにしましょう。万が一虫が発生した場合は、ダンボール全体をビニールで覆い、1～2日放置するだけで駆除ができます。（虫自体は無害ですので、そのまま使用が出来ます。）

○コンポストの置く場所



箱は雨の当たらない、日当たりが良く風通しの良い場所（ベランダや軒下）に置いてください。

通気性を良くするため、ブロックや角材等の上に置いてください。

生ごみを入れた後は、必ず蓋をしてください。

○中の土の作り方



コンポストの中身は腐葉土と米ぬかです。

腐葉土と米ぬか以外に「ピートモス」と「もみ殻くん炭」でも土を作ることができます。

コンポストへは、腐葉土と米ぬかを 3 : 2 の割合で入れ、よくかき混ぜてください。

○生ごみを入れます



水分不足に注意してください。

水を軽く切った生ごみを入れます。処理できる量は土の量にもよりますので、最初は様子を見ながら生ごみを入れるようにしてください。

生ごみを入れた後は空気を入れるようによく混ぜてください。

発酵してくると箱の中の温度が50度～60度になります。温度が上がらない場合は水分不足の可能性があります。握って団子になる程度の水を追加してよく混ぜてください。

《ポイント》 大きな骨や根菜類は分解しにくいので注意してください。
生ごみは大きな塊よりも細かくした方が早く分解されます。
ごみを入れない日でも、かき混ぜてあげることで菌の動きが活性化します。
カビが生えることがありますが、土に混ぜ込んで問題ありません。
寒い時期は菌の活動が穏やかで分解に時間がかかります。

○堆肥の完成



上の写真の生ごみは、2、3日で分解されました。

2～3ヶ月の間、生ごみを処理することができます。土がダマツっぽくなり、生ごみの分解が遅くなってきたらやめ時です。

最後の生ごみ投入から1～3ヶ月熟成させれば、良質な堆肥の出来上がりです。完成した堆肥は長期保存できますので、花や野菜の植付けまで置いても問題ありません。

生ごみが減ると、使用するゴミ袋の削減にもつながります！『堆肥を作るついでに生ごみを減らす。』くらいの気持ちで始めてみましょう。

※ 香美市では生ごみ処理容器の購入に対し予算の範囲内で補助をしていますので、そちらもご活用ください。